

景気動向調査結果報告書

【やお景況レポート】

2018年 第Ⅲ・四半期(7～9月) VOL. 90

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 事業継続計画（BCP）の策定状況について	12

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2018年12月実施）の調査で90回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業640社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）360社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は、下表に示すとおり、製造業が17.3%、非製造業が14.7%、全体では16.4%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社→1,000社）。

表1. 業種別回答状況

業 種 名	発送数	回答数	回答率
金 属 製 品	171	31	18.1%
機 械 器 具	182	26	14.3%
そ の 他 の 製 造 業	287	54	18.8%
製造業計	640	111	17.3%
建 設 業	120	21	17.5%
卸 売 業	60	11	18.3%
小 売 業	50	6	12.0%
サ ー ビ ス 業	130	15	11.5%
非製造業計	360	53	14.7%
合 計	1,000	164	16.4%

表2. 規模別回答状況

規模別	製 造 業			非 製 造 業			全 体		
	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率
5～19人	372	52	14.0%	262	33	12.6%	634	85	13.4%
20～49人	173	36	20.8%	64	15	23.4%	237	51	21.5%
50～99人	55	14	25.5%	17	3	17.6%	72	17	23.6%
100～299人	31	6	19.4%	10	1	10.0%	41	7	17.1%
300人以上	9	3	33.3%	7	1	14.3%	16	4	25.0%
合 計	640	111	17.3%	360	53	14.7%	1,000	164	16.4%

【調査結果の総括】

～企業景況感の持ち直しがみられる八尾～

7～9月期の八尾市の業況判断D I¹は全産業で30と、前回調査から6ポイント改善し、企業マインドは持ち直した（2018年6月=24→9月=30）。業種別にみると、製造業は前回調査から10ポイント改善した一方（6月=18→9月=28）、非製造業は7ポイントの悪化（6月=41→9月=34）となったが、D Iは高い水準を維持している。

D Iの推移からここ1年ほどの八尾の景気動向を振り返ると、2017年から確かな足取りで回復基調を辿ってきたが、2018年には春から夏にかけて製造業を中心に弱い動きがみられ景気回復の動きに一服感が強まった。企業マインド後退の背景には、原材料価格の高進、人手不足にともなう人件費の上昇などに加え、米中貿易摩擦の激化、大阪府北部地震や豪雨などの自然災害の影響が考えられる。海外経済には米中貿易摩擦の長期化のもと減速懸念が強まる一方、自然災害によるマイナス影響は払拭されつつあるとみられ、これが足元の景況感の持ち直しという形で表れたとみられる。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	2017年10～12月期		2018年1～3月期		2018年4～6月期		今回 2018年7～9月期		天気図 前回比較
全産業		〈27〉		〈29〉		〈24〉		〈30〉	→
製造業		〈29〉		〈28〉		〈18〉		〈28〉	→
金属製品		〈34〉		〈33〉		〈21〉		〈11〉	→
機械器具		〈33〉		〈31〉		〈19〉		〈39〉	→
その他の製造業		〈22〉		〈22〉		〈14〉		〈33〉	→
非製造業		〈23〉		〈32〉		〈41〉		〈34〉	→
建設業		〈23〉		〈27〉		〈59〉		〈37〉	→
卸売業		〈25〉		〈41〉		〈37〉		〈▲16〉	↘
小売業		〈0〉		〈29〉		〈60〉		〈60〉	→
サービス業		〈27〉		〈33〉		〈18〉		〈45〉	→

(注)〈〉内は業況判断D I。景況天気図で示した景況判断は、業況判断D I値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、D I値がプラス10以上であれば晴れ 、0～9は薄日 、▲10～▲1は曇り 、▲20～▲11は小雨 、▲21以下は雨  とした。
図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、↗が好転、→が横ばい、↘が悪化を示す。

¹ D Iは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断D I」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断D I」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

日銀短観²(2018年9月調査)における全国および近畿の業況判断DI(全産業・全規模)と比較してみると、全国、近畿ともに前回調査より1ポイントの悪化となり、企業の業況感は盛り上がりを欠く状況となっている。一方、八尾市においては、製造業の回復にけん引される形で、春から夏にかけての停滞的な動きから持ち直しており、全国、近畿に比べると、反発力の強さがみられる(図2～4)。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

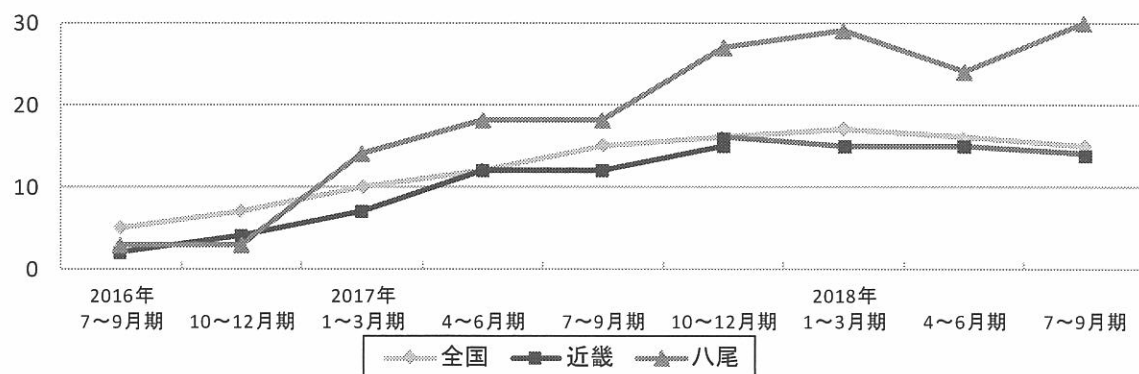


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

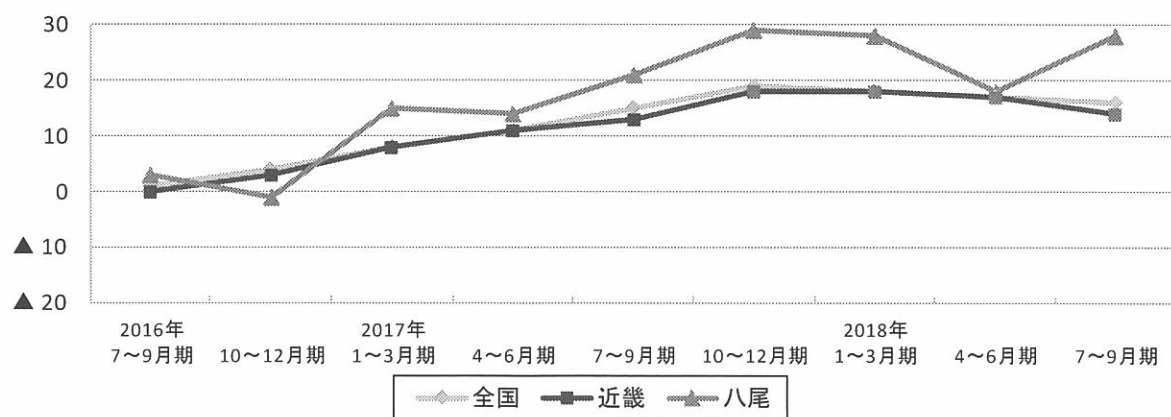
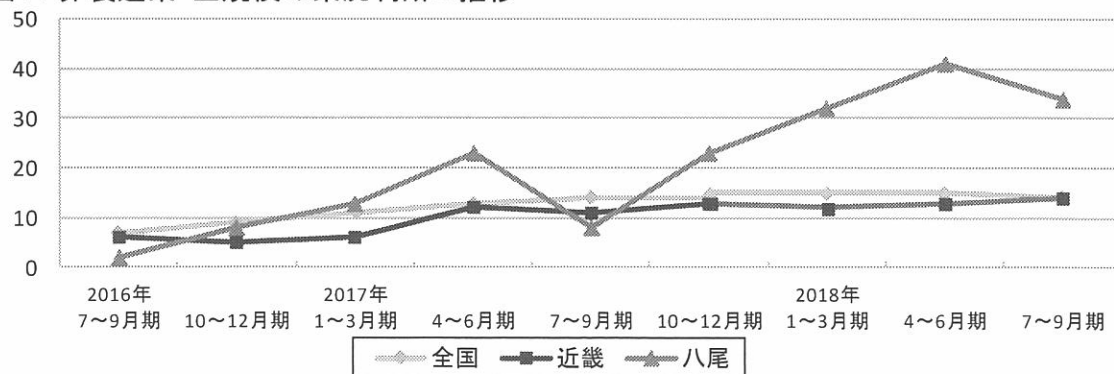


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



(資料) 日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

² 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方向感を八尾市の各種前年同期比のD I³で確認すると(図5～6)、製造業の「生産額」はプラス幅が縮小したものの、D Iの水準は6四半期続いてプラスとなっており、前年同期を上回る状況が持続している。生産の増勢が維持されるもと、「設備投資額」のプラス幅が拡大しており、企業の設備投資意欲は強い。一方、非製造業は、「売上額」は春から夏にかけての弱い動きから回復する動きがみられるのに加えて、「販売先数・客数」もプラス幅が拡大していることから、事業を取り巻く状況が悪化したとはみられないものの、「設備投資額」は3四半期ぶりにマイナスとなり慎重な動きとなった。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

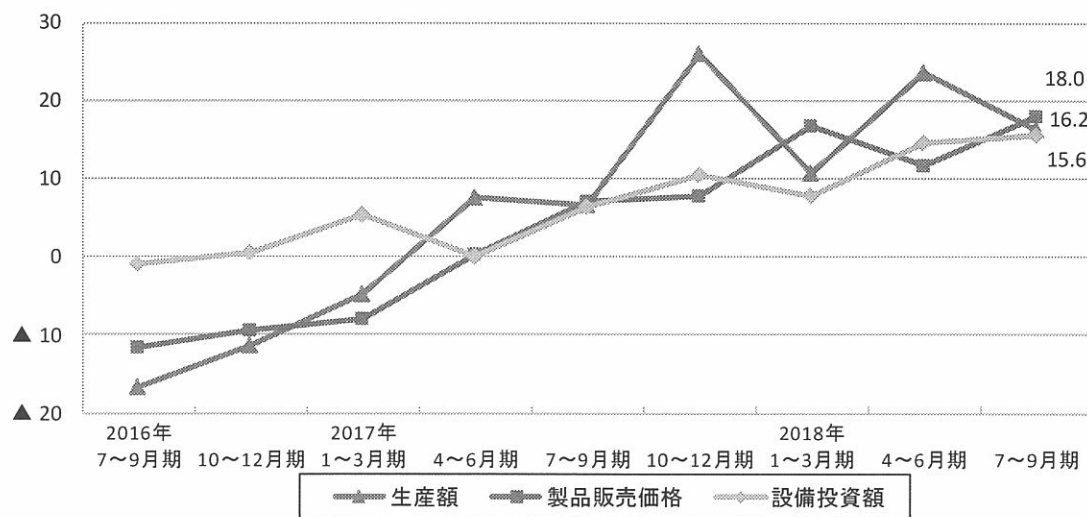
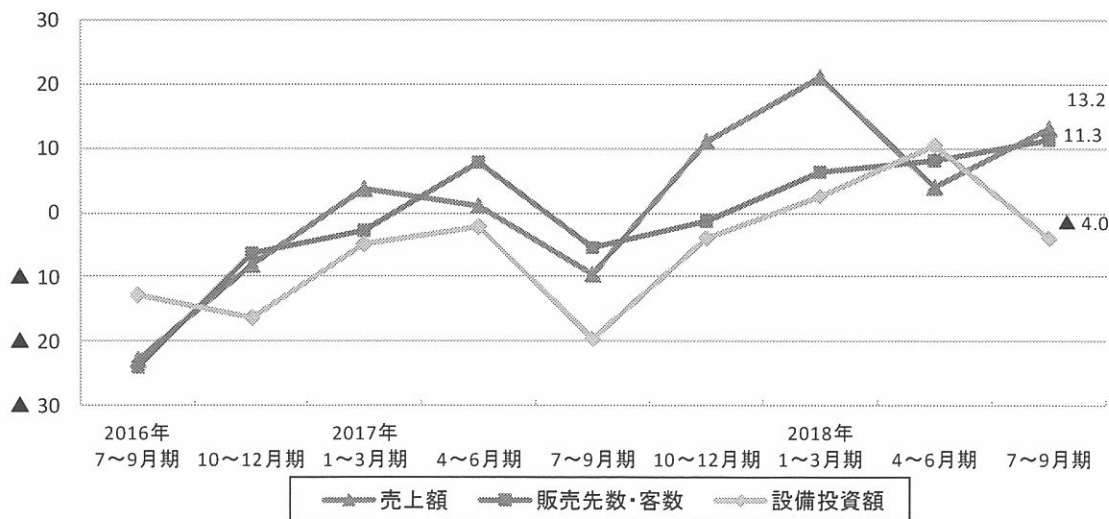


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



³ 「前年同期比」D Iは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



【生産額】

製造業の2018年7～9月期における生産額D I（前期比、「増加」－「減少」）は11.7とプラス（増加超）で推移した（前々回8.4→前回18.6→今回11.7）。業種別の内訳をみると、金属製品がマイナスに転じたものの、機械器具とその他の製造業はプラスが続いた。

表3. 生産額(前期比)

業 種	当期の生産額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	31	22.6	45.1	32.3	▲ 9.7	29.8
機 械 器 具	26	26.9	61.6	11.5	15.4	5.0
その他の製造業	54	37.0	48.2	14.8	22.2	18.9
製造業計	111	30.6	50.5	18.9	11.7	18.6

前年同期と比べた生産額D Iでも、16.2とプラス（増加超）が続いた（前々回10.6→前回23.6→今回16.2）。

表4. 生産額(前年同期比)

業 種	当期の生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	31	32.3	41.9	25.8	6.5	23.4
機 械 器 具	26	42.3	34.6	23.1	19.2	17.5
その他の製造業	54	35.2	50.0	14.8	20.4	28.3
製造業計	111	36.0	44.2	19.8	16.2	23.6

【出荷額】

7～9月期の出荷額D I（前期比、「増加」－「減少」）は9.9と、プラス（増加超）が続いた（前々回5.1→前回15.1→今回9.9）。業種別では、金属製品がマイナスに転じたものの、機械器具とその他の製造業はプラスが続いた。

表5. 出荷額

業 種	当期の出荷額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	31	22.6	45.1	32.3	▲ 9.7	26.1
機 械 器 具	26	26.9	61.6	11.5	15.4	2.5
その他の製造業	54	37.0	44.5	18.5	18.5	15.1
製造業計	111	30.6	48.7	20.7	9.9	15.1

【製品在庫】

7～9月期の製品在庫D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲6.6（▲はマイナスを表す、以下同様）と、小幅なマイナス（過剰超）で推移している（前々回▲3.4→前回▲4.5→今回▲6.6）。業種別の内訳をみると、金属製品はプラス（不足超）が続いている一方、機械器具とその他の製造業はマイナスであった。

表6. 製品在庫

業 種	当期の製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		不足	適正	過剰		
金 属 製 品	30	16.7	80.0	3.3	13.4	4.4
機 械 器 具	25	8.0	76.0	16.0	▲ 8.0	▲ 13.2
その他の製造業	51	0.0	82.4	17.6	▲ 17.6	▲ 5.9
製造業計	106	6.6	80.2	13.2	▲ 6.6	▲ 4.5

【原材料仕入価格】

7～9月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は56.4 と、プラス（値上超）が続き、価格上昇傾向である（前々回61.8→前回63.8→今回56.4）。業種別では、すべての業種がプラスで推移した。

表7. 原材料仕入価格

業 種	当期の原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	31	58.1	41.9	0.0	58.1	71.7
機 械 器 具	26	53.8	42.4	3.8	50.0	52.5
その他の製造業	53	58.5	41.5	0.0	58.5	65.4
製造業計	110	57.3	41.8	0.9	56.4	63.8

【製品販売価格】

7～9月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は16.4 と、プラス（値上超）が続き、値上げ傾向である（前々回11.1→前回11.7→今回16.4）。業種別内訳をみると、全ての業種がプラスで推移している。

表8. 製品販売価格(前期比)

業 種	当期の製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	31	22.6	74.2	3.2	19.4	17.4
機 械 器 具	26	15.4	84.6	0.0	15.4	2.5
その他の製造業	53	15.1	84.9	0.0	15.1	13.7
製造業計	110	17.3	81.8	0.9	16.4	11.7

前年同期と比べた製品販売価格D I も 18.0 とプラスであった（前々回 16.7→前回 11.7→今回 18.0）。

表9. 製品販売価格(前年同期比)

業 種	当期の製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	31	32.3	54.8	12.9	19.4	13.0
機 械 器 具	26	19.2	77.0	3.8	15.4	±0
その他の製造業	54	18.5	81.5	0.0	18.5	19.6
製造業計	111	22.5	73.0	4.5	18.0	11.7

【 採算状況 】

7～9月期の採算状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲7.2 とマイナス（悪化超）圏の動きが続いている（前々回▲11.7→前回▲8.0→今回▲7.2）。業種別の内訳をみると、全ての業種がマイナスとなっている。

表10. 採算状況

業 種	当期の採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	31	12.9	64.5	22.6	▲ 9.7	▲ 2.2
機 械 器 具	26	15.4	65.4	19.2	▲ 3.8	▲ 7.5
その他の製造業	54	16.7	59.2	24.1	▲ 7.4	▲ 13.5
製造業計	111	15.3	62.2	22.5	▲ 7.2	▲ 8.0

【 資金繰り 】

7～9月期の資金繰りD I（前期比、「好転」－「悪化」）は±0 と改善の勢いは鈍化した（前々回▲2.7→前回 5.1→今回±0）。業種別の内訳をみると、その他の製造業はプラスとなり改善の動きがみられたものの、金属製品は±0 と改善の動きが一服、機械器具はマイナスに転じた。

表11. 資金繰り

業 種	当期の資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	31	6.5	87.0	6.5	±0	13.1
機 械 器 具	26	7.7	80.8	11.5	▲ 3.8	2.5
その他の製造業	54	13.0	75.9	11.1	1.9	±0
製造業計	111	9.9	80.2	9.9	±0	5.1

【 受注状況 】

7～9月期の受注状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は8.1とプラス（好転超）であった（前々回2.8→前回10.8→今回8.1）。業種別にみると、金属製品がマイナスに転じたが、機械器具とその他の製造業はプラスが続いた。

表12. 受注状況

業 種	当期の受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	31	19.4	54.8	25.8	▲ 6.4	10.9
機 械 器 具	26	23.1	61.5	15.4	7.7	5.0
その他の製造業	54	31.5	53.7	14.8	16.7	15.1
製造業計	111	26.1	55.9	18.0	8.1	10.8

【 設備投資額 】

7～9月期の設備投資額D I（前年同期比、「増加」－「減少」）は15.6と、プラス（増加超）で推移しており、積極的な投資姿勢を維持している（前々回7.9→前回14.6→今回15.6）。業種別には、機械器具がマイナスであるものの、金属製品やその他の製造業はプラスであった。

表13. 設備投資額

業 種	当期の設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	30	30.0	56.7	13.3	16.7	34.8
機 械 器 具	26	15.4	61.5	23.1	▲ 7.7	▲ 12.8
その他の製造業	53	30.2	66.0	3.8	26.4	17.3
製造業計	109	26.6	62.4	11.0	15.6	14.6

【 向こう3カ月の景況 】

7～9月期における向こう3カ月の景況判断D I（「好転」－「悪化」）は6.3と、プラス幅（好転超）が拡大した（前々回▲1.7→前回0.7→今回6.3）。業種別の内訳をみると、機械器具のマイナス幅が縮小し、金属製品とその他の製造業はプラス（好転超）が続いた。

表14. 向こう3カ月の景況

業 種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	31	35.5	48.4	16.1	19.4	2.1
機 械 器 具	26	19.2	57.7	23.1	▲ 3.9	▲ 12.5
その他の製造業	54	18.5	66.7	14.8	3.7	9.4
製造業計	111	23.4	59.5	17.1	6.3	0.7

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



建設業

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



7～9月期の状況を各種DI（前期比）でみると、売上額、工事引合件数や受注状況はプラス（増加超、好転超）と、事業環境は良好である。資材仕入価格や労務費はプラス（値上超）が続き、採算状況がマイナス（悪化超）となるなどコスト高の影響があるものの、向こう3カ月の景況はプラス（好転超）となっており、総じてみれば景況感は良好である。

前年同期比DIをみると、売上額が±0と増勢一服の動きがみられるもと、設備投資額はマイナス（減少超）となり、投資姿勢は慎重化した。

表15. 建設業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	21	28.6	57.1	14.3	14.3	±0
	資材仕入価格	21	47.6	52.4	0.0	47.6	61.1
	労務費	21	33.3	61.9	4.8	28.5	35.3
	工事引合件数	21	42.9	47.6	9.5	33.4	22.2
	受注単価	21	4.8	80.9	14.3	▲ 9.5	±0
	採算状況	21	9.5	76.2	14.3	▲ 4.8	±0
	資金繰り	21	4.8	85.7	9.5	▲ 4.7	±0
	受注状況	21	38.1	52.4	9.5	28.6	5.5
	向こう3カ月の景況	21	23.8	71.4	4.8	19.0	11.1
前年同期比	売上額	21	28.6	42.8	28.6	±0	22.2
	受注状況	21	28.6	57.1	14.3	14.3	11.1
	設備投資額	20	10.0	75.0	15.0	▲ 5.0	11.7

卸売業

景況天気図は

(前回)



⇒ (今回)

小雨



7～9月期を前期と比べると、売上額、販売先数・客数が±0と増勢が鈍化し、客単価がマイナス（減少超）となるなど弱い動きがみられる。採算状況は±0と下げ止まりの動きがみられ、資金繰りもプラス（好転超）であることから、事業環境が急に悪化したわけではないとみられる。自然災害による物流網混乱の影響など一時的なマイナス要因が売上等にみられる弱い動きの主因と考えられる。向こう3カ月の景況は±0と、先行きは現状維持の見通しとなっている。

前年同期とのD Iの比較でみると売上額、販売先数・客数ともにマイナス（減少超）となり、設備投資額もマイナスと減少の動きがみられた。

表16. 卸売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	11	27.3	45.4	27.3	±0	33.3
	販売先数・客数	11	27.3	45.4	27.3	±0	22.2
	客単価	11	18.2	54.5	27.3	▲ 9.1	±0
	商品仕入価格	11	36.4	63.6	0.0	36.4	62.5
	商品在庫	11	9.1	81.8	9.1	±0	▲ 22.2
	商品販売価格	11	18.2	63.6	18.2	±0	22.2
	採算状況	11	18.2	63.6	18.2	±0	▲ 22.2
	資金繰り	11	18.2	72.7	9.1	9.1	11.1
	粗利益率	11	9.1	72.7	18.2	▲ 9.1	▲ 44.5
	向こう3カ月の景況	11	18.2	63.6	18.2	±0	11.1
前同期 年比	売上額	11	18.2	54.5	27.3	▲ 9.1	11.1
	販売先数・客数	11	18.2	54.5	27.3	▲ 9.1	22.2
	設備投資額	11	18.2	36.3	45.5	▲ 27.3	33.3

小売業

景況天気図は

(前回)



⇒ (今回)

晴れ



7～9月期の各種D I（前期比）は、客単価がマイナス（減少超）となったものの、販売先数・客数、商品販売価格ともにプラス（増加超）となり、売上額はプラスとなった。採算状況もプラスに転じ、事業環境は総じてみれば好転している。向こう3カ月の景況にはプラス（好転超）となり、先行きの見通しには明るさがみられる。

前年同期との比較では、販売先数・客数、売上額ともにプラス（増加超）となり、改善している。設備投資額もプラスであり積極的な投資姿勢を維持している。

表17. 小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	6	50.0	16.7	33.3	16.7	33.3
	販売先数・客数	6	50.0	16.7	33.3	16.7	50.0
	客単価	6	0.0	83.3	16.7	▲ 16.7	16.6
	商品仕入価格	6	16.7	83.3	0.0	16.7	50.0
	商品在庫	6	0.0	100.0	0.0	±0	±0
	商品販売価格	6	16.7	83.3	0.0	16.7	16.7
	採算状況	6	33.3	66.7	0.0	33.3	▲ 33.3
	資金繰り	6	16.7	66.6	16.7	±0	▲ 33.3
	粗利益率	6	50.0	33.3	16.7	33.3	±0
	向こう3カ月の景況	6	16.7	83.3	0.0	16.7	±0
前同期 年比	売上額	6	66.7	16.6	16.7	50.0	33.3
	販売先数・客数	6	66.7	0.0	33.3	33.4	±0
	設備投資額	6	33.3	50.0	16.7	16.6	16.7

サービス業

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



7～9月期を前期と比べると、売上額、客数、客単価ともプラス（増加超）であり、採算状況がプラス（好転超）に転じた。向こう3カ月の景況もプラス（好転超）と、景況感は明るさが見られる。

前年同期との対比でも、売上額、客数ともにプラス（増加超）であった。設備投資額もプラスに転じた。

表18. サービス業の景気動向

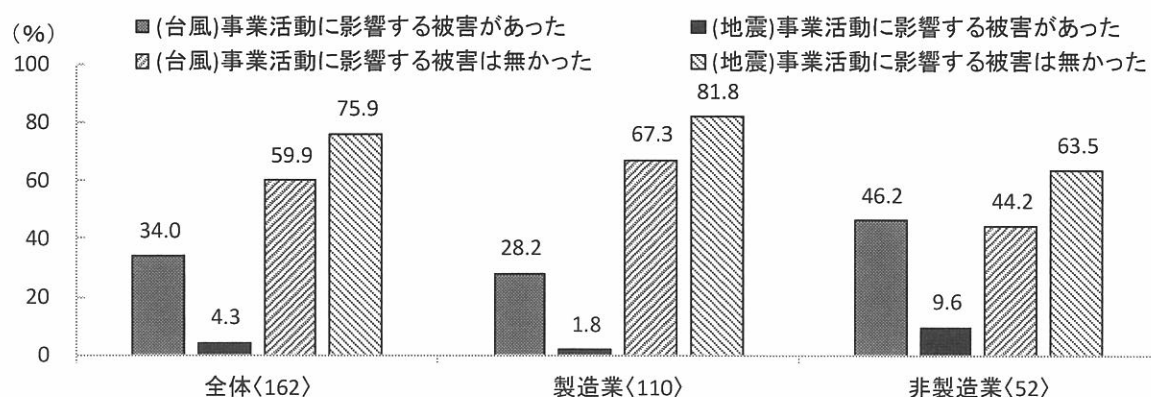
景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	15	53.3	33.4	13.3	40.0	▲ 12.5
	客数	15	20.0	73.3	6.7	13.3	18.7
	客単価	15	26.7	66.6	6.7	20.0	6.3
	採算状況	15	33.3	46.7	20.0	13.3	▲ 18.8
	資金繰り	14	21.4	57.2	21.4	±0	▲ 6.7
	粗利益率	15	26.7	60.0	13.3	13.4	▲ 25.0
	向こう3カ月の景況	15	33.3	46.7	20.0	13.3	±0
前同期 年比	売上額	15	53.3	26.7	20.0	33.3	▲ 31.3
	客数	15	26.7	60.0	13.3	13.4	±0
	設備投資額	14	21.4	64.3	14.3	7.1	▲ 6.6

3. 事業継続計画の策定状況について

関西では 2018 年夏場に自然災害が相次ぎ、事業活動への影響が懸念された。そこで、八尾市事業所における台風 21 号および大阪府北部地震での事業活動への影響と、事業継続計画（BCP）⁴の策定状況について調査した。

自然災害の被害について尋ねたところ、全体（回答事業所数は 162）では、台風 21 号の被害があった事業所は 34.0%にのぼったが、大阪府北部地震の被害があった事業所は 4.3%にとどまった。

図 7. 台風 21 号・大阪北部地震での事業活動に影響する被害



(注)〈〉内は回答事業所数。

BCPの策定状況を見ると、全体（回答事業所数は 160）では「策定済み」は 7.5%にとどまり、「現在策定中」（15.6%）、「策定を予定している」（18.1%）など、着手段階にある事業所を合わせると 4 割程度となるものの、「策定を予定していない（策定していない）」が 58.8%と半数以上にのぼった。業種別にみると、「策定済み」の事業所割合は製造業が非製造業をやや上回るものの、いずれも「策定を予定していない（策定していない）」事業所が半数以上である。

台風 21 号、大阪府北部地震での被害の有無別に BCP 策定状況を見ると、いずれかの被害を受けた事業所では被害が無かった事業所に比べて「現在策定中」あるいは「策定を予定している」とする事業所割合が上回っている。被災経験の有無が BCP 策定への意識を高める機会となった可能性がある。

⁴ 事業継続計画（BCP）とは、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。

図 8. B C P 策定状況（業種別）

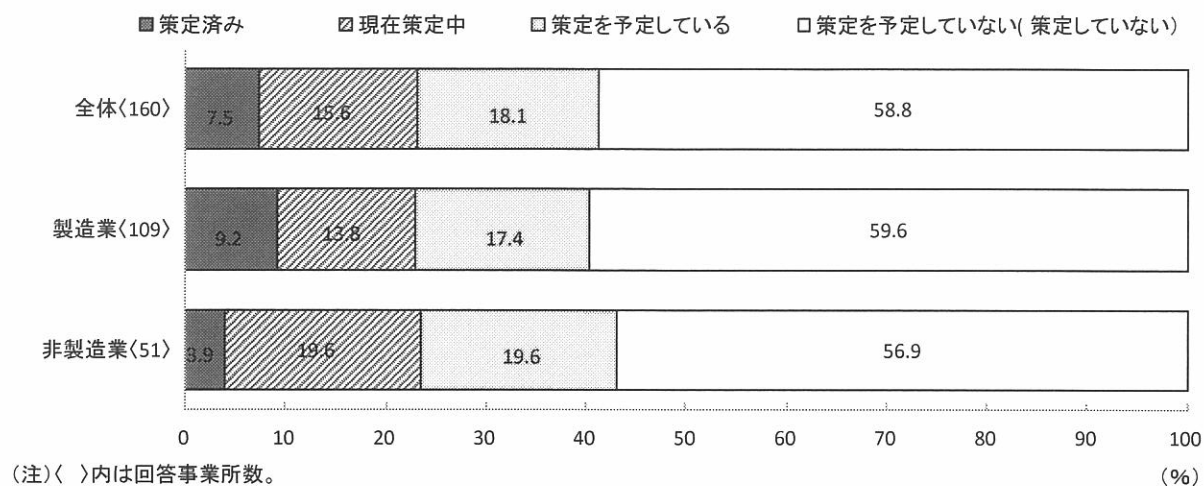
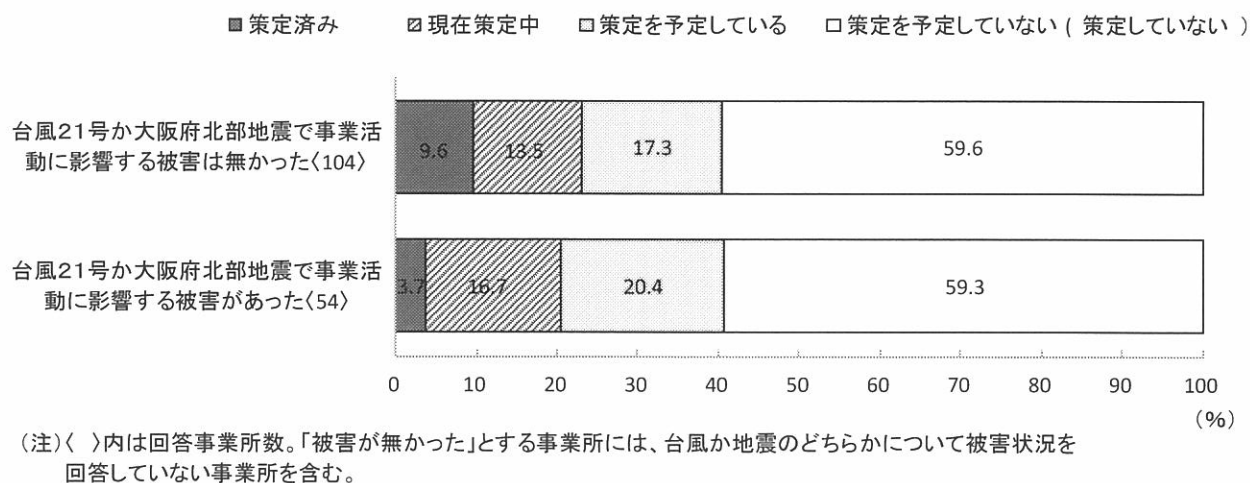
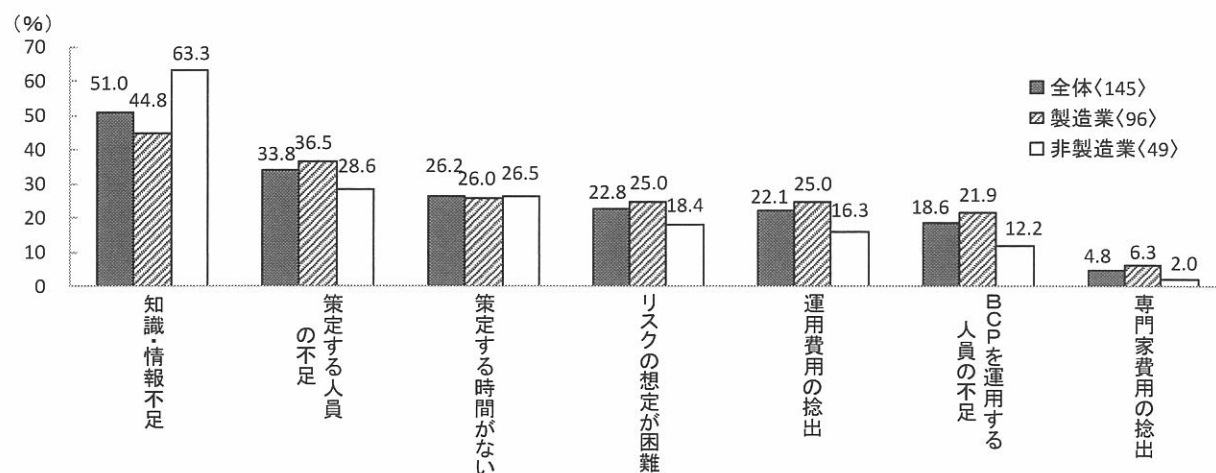


図 9. B C P 策定状況（台風 21 号・大阪府北部地震の被害状況別）



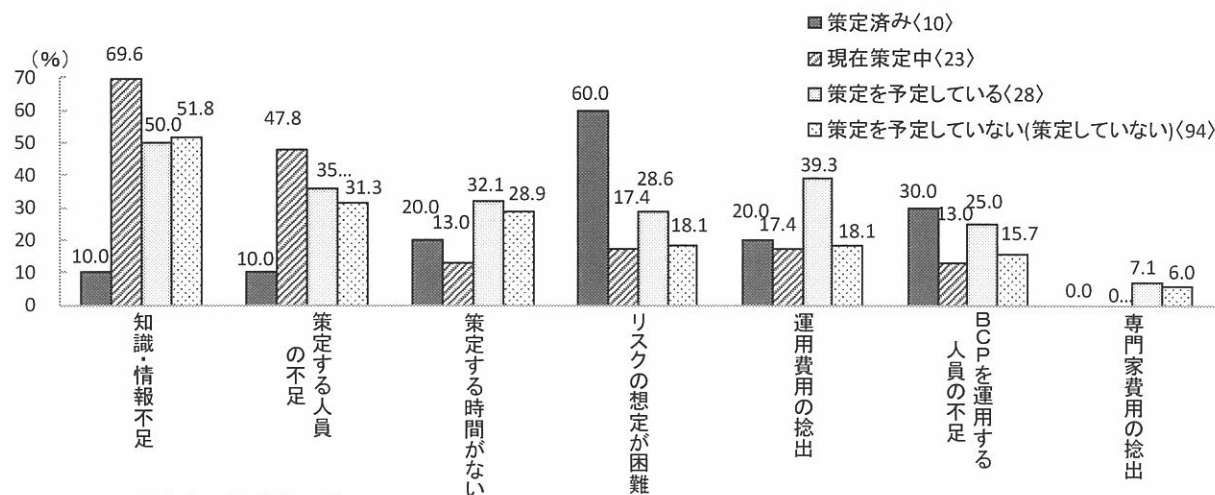
B C P 策定の際の課題についてたずねたところ、全体（回答事業所数は 145）では、「知識・情報不足」（51.0％）が最も多く、次いで「策定する人員の不足」（33.8％）、「策定する時間が無い」（26.2％）が多く、組織の人的リソースの問題が挙げられた。さらに、B C P 計画の策定状況別でみると、未策定の事業所では「知識・情報不足」、「策定する人員の不足」が多く挙げられているが、策定済み事業所では「リスクの想定が困難」が最も多くあげられている。

図 10. B C P を策定する際の課題（業種別）



(注) 〈 〉内は回答事業所数。複数回答。

図 11. B C P を策定する際の課題（B C P 策定状況別）



(注) 〈 〉内は回答事業所数。複数回答。

表 19. 災害状況や対策に関する企業コメント

業種	規模	コメント内容
製造業	A	商工会議所等で策定セミナーなどを開催して頂きたい。
製造業	A	台風で倉庫などに被害を受けたがいまだに修理できない。
製造業	B	グループ会社が台風の影響で工場を修理するために機械稼働ストップ。
製造業	B	何をすべきかわからない。
サービス	A	倉庫屋根から雨漏り（修理依頼するも順番まち）。
サービス	A	自社の地理的リスク（地震・水害）が知りたい。
サービス	B	急な自然災害にも対応・対処できる会社づくりをめざしています。専門職のため、難しい課題ではありますが、生産性を上げて早く代謝できるよう努めています。

(注1) 規模：A＝5～19人、B＝20～49人、C＝50～99人、D＝100～299人、E＝300人以上

(注2) コメントは、できるだけ原文のまま掲載していますが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合がある。また、調査を実施した2018年12月時点での表現である。

 八尾商工会議所

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>

 八尾市 経済環境部産業政策課

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>